illustration by Ryuto Miyake

新潮クレスト・ブックス 2020-2021

［新刊インタビュー］ カリ・ファハルド＝アンスタイン
［近刊紹介］ オーシャン・ヴオン
ただいま翻訳中！ これから出るクレスト・ブックス
新潮クレスト・ブックス カタログ 1998-2020

SINCE 1998
CREST BOOKS
Shinchosha

interview
photograph © Graham Morrison

故郷に生きる女たちを書きたかった

女たちは若くして妊娠し、
男たちは身勝手に姿をくらます――。
コロラド州デンバー、ヒスパニック系
コミュニティのやるせない日常を描いた
『サブリナとコリーナ』。デビュー作が
いきなり全米図書賞の最終候補となった、
話題の新人作家のインタビュー。

カリ・ファハルド＝アンスタイン

interview with Kali Fajardo-Anstine

クリスティーナ・アレオラ 聞き手
翻訳 小竹由美子
interview by Cristina Arreola
translated by Kotake Yumiko

フーリア・アルバレスが自分のデビュー短篇集『サブリナとコリーナ』に推薦文を寄せてくれたと知ったとき、カリ・ファハルド＝アンスタインは膝が崩れそうになった。数日後、サンドラ・シスネロスもまた本書を称賛しているとわかって、泣いた。

「読書はずっと好きで、高校でフーリア・アルバレスとサンドラ・シスネロスを読んではじめて、わたしのような人間でも作家になれるかもしれないと本気で思ったんです」とファハルド＝アンスタインは語る。

「文学は大好きでしたが、文学の世界がわたしのような南西部出身の混血のチカーナを歓迎してくれるようには思えませんでした」

『サブリナとコリーナ』に収められた十一の短篇で、ファハルド＝アンスタインは自分の故郷のチカーナたちへ――コロラドを貫く山脈と同じく打ち砕かれることはなく、そこを囲む不毛の砂漠のように回復力のある女たちへ――のラブレターを綴る。

祖先の頭越しに国境が移動

ファハルド＝アンスタインの育ったデンバーは、人口の三割以上がヒスパニック、ラティンクス、アメリカ先住民とされているが、近年、こうした多様な人種からなるコミュニティの多くの人々が、デンバーの急速な発展の犠牲となっている。デンバーは今や全米でも最低水準の失業率を誇っているが、また一方で地域再開発による高級化（ジェントリフィケーション）がもたらしたヒスパニック系コミュニティの強制退去の規模においても群を抜いている。これは本書の大動脈を流れている痛みだ。

最後の一篇「幽霊病」で作者は、大学建設のために住んでいた家から立ち退かされた人々の子や孫に授与される奨学金で大学に通う若い女性を描く。これはコロラド大学デンバー校に実在する奨学金がモデルとなっている。発展の名のもとに強いられた犠牲をまざまざと思い出させるこの奨学金は、善意から出たものではあるが、世代にまたがる傷を修復するにはじゅうぶんとは言えない試みだ。

故郷の街の急速な高級化は、南西部にルーツを辿るのがいちばん手っ取り早い女たち、デンバーとその周辺を故郷と呼んできた一族の女たちの物語を書きたいと作者に思わせた要因のひとつなのだ。

多くのチカーナがそうであるように、ファハルド＝アンスタインは移民第一世代ではないし、移民第二世代ですらない。彼女の一族は何世紀ものあいだアメリカで暮らしてきた――「わたしの祖先の頭越しに国境が移動したんです」と彼女は語る――だから、本書には移民の経験はあえて書かれていない。

「大学での副専攻科目はチカーノ研究だったので、ラティンクスの経験を描いたさまざまな文学に触れました」とデンバー・メトロポリタン

州立大学で文学士号を、ワイオミング大学で芸術学修士号を取得したファハルド＝アンスタインは語る。「でも、わたしが繰り返し繰り返し読んでいたのは、最近の移民の経験に関する本でした」と作者は言う。「わたしにはそういった作品が必要でしたが、一方で、そういう作品のなかにわたし自身の姿はありませんし、家族の姿もありません。わたしはとにかく、自分たちが登場するような本があればいいのにと思ったんです」

自分にとって自然に書きたい

自分にとっての本当のところを書こうとして、ファハルド＝アンスタインは、多くのラティンクス読者ならすぐさまわかってくれるであろうハードルにぶつかった。自分の文化をじゅうぶんに体現しているとは言えないのではないかという気持ち、そして、自分の実体験からすると嘘くさく感じられる書き方をしろとプレッシャーをかけられている感覚である。

「書き始めたさいしょのころ――つまり、ワークショップとか教室とかで――よく先生から言われたんです。『ここをもっとメキシコっぽくしたら?』『どうしてこの人たちはスペイン語でしゃべらないの?』『あのさ、もっと食べ物のことを書いたら?』わたしの物語にとってはどうでもいいようなことばかり。おかげで自分の作品がちゃんとしたチカーノらしく思えないような方向へいってしまいました。なんだか白人が書いたみたいになってしまって。ところが、事実は複雑で、わたしの登場人物たちはプエブロ族の出身なんです、だから先住民でもあるわけで」

ファハルド＝アンスタインのスペイン語は流暢ではないし、本書はすべて英語で書かれている。なかの一篇――一九五〇年代に時代設定された「姉妹」――で、登場人物たちがいつスペイン語でしゃべり（家にいるときは、たいていつ英語でしゃべっているか（人前では、常に）、作者は文章で明示している。

先祖はスペイン語で話すのを恥ずかしいと思ったでしょう。今わたしは、スペイン語をしゃべれないことが恥ずかしい。

「わたしたちの先祖にとってスペイン語で話すのは恥ずかしいことだったのだと思います。そして今わたしは、スペイン語をしゃべれないことが恥ずかしい」とファハルド＝アンスタインは言う。「わたしはスペイン語を身につけたい。でもまた同時に、自分がモノリンガルであることを恥ずかしく思わないでいられるようになりたいとも思っています」

ピュー研究所の二〇一五年調査報告書によると、ラティンクス移民の親の九七パーセントが子供にスペイン語で話しかけるが、第二世代の親になると比率は急激に低下して七一パーセントとなり、第三世代かその後の世代の親では五〇パーセント以下となる。アメリカで暮らすラティンクスの人々の八八パーセントが、次世代がスペイン語を話すことは重要だと思っている一方で、七一パーセントの人々が、スペイン語を話すということはラティンクスと見なすにあたって必要な条件ではないとも考えている。

このデータが意味することは明らかだ。ラティンクスの家族は、アメリカ暮らしが長くなればなるほど新世代が家庭でスペイン語会話能力を身につける可能性は低くなる。そのため、自分のルーツをラテンアメリカの国に求めるのが簡単ではなかったり、スペイン語や先住民の言葉をしゃべれなかったりすると、自分は本当にラティンクスなのか、というアイデンティティの危機を招く恐れがあるのだ。

「過去のラティンクス文学の大半において、作中にはスペイン語が必要だといった考えが根本にありました、文化のパフォーマンス――わたしはずっとこの言葉を使っているんですが――が必要とされていて、わたしはそれを断固拒否したいんです」と彼女は語る。「以前はもっとスペイン語を入れていました。でもそうすると、スペイン語が流暢な友だちに間違っていないか訊かなくちゃならなくて。わたしはただ、自分にとって自然に感じられるように書きたかったんです」

伝統的治療法が物語に効いた

過剰だが十分ではないというややこしさが、この短篇集には滲んでいる。言葉のことだけではなく、文化的アイデンティティの他の指標についても。本書の短篇のなかでファハルド＝アンスタインが最初に書いたものである「治療法」で、作者はチカーノの家族で何世代にもわたって伝えられてきた伝統的な「レメディオス（治療法）」を読者に紹介する。この物語の登場人物たちは、効目があるとわかっていながら、いつもそれらを使うわけではない――そして結局のところ、彼らの疾患を治療できるのはそういう伝統的治療法だけなのだ。

「わたしはアタマジラミや胃痙攣や口臭を、適した薬草を使って治すことができる」と語り手は言う。「たいていは、市販の薬に頼っている。清潔だし、効目が早いし、子どもには蓋が開けられない容器に入っているし。でもときおり、本当にひどい頭痛が起きてアスピリンを飲んでも治まらなかったりすると、わたしはジャガイモのスライスをこめかみに貼りつけて、悪いものが体から吸い出されることを期待する」

「『治療法』で初めて、『ラティンクス文化』の要素を取り上げながらもべつのタイプの物語へと抜け出すことができました」とファハルド＝アンスタインは語る。「『治療法』で、自分の声を発見し、いろんな影響を振り払ったんです。影響をすっかり振り払ってしまうことはできませんけどね。自分のアイデンティティを、自分が実際に生きてきた経験として提示するのではなくそれらしく演じろ、というプレッシャーを振り払えたんです」

courtesy of Kali Fajardo-Anstine

この物語は本書後半に登場する「彼女の名前をぜんぶ」と呼応している。アリシアという名前の女性が地元のボタニカで堕胎用の調合薬を求めるのだ（この場合の生薬は「下剤」の役目を果たすんです、とファハルド＝アンスタインは言う）。この出来事の何年もまえに、アリシアは診療所の医師に処方された堕胎薬を飲んで苦しい思いをしていた。彼女はアブエラ（祖母）から「ああいういろんなろくでもないもんのまえは、薬草しかなかったんだよ、ミハ。なんであたしに頼まなかったの?」と言われる。どちらの物語でも、生薬による治療法はこの女たちにとって二番目の選択肢であって一番目ではない。この選択は、彼女たち自身でさえ自分たちの文化がよくわかっていないという、彼女たちの置かれた不確かな立場を物語っている。

これらの短篇はすべてカリ・ファハルド＝アンスタインの独特のアイデンティティ意識から生まれたもので、もっと暗い部分について言えば、女性に対する、とりわけ非白人女性に対する暴力についての作者の経験から生まれている。「チーズマン・パーク」では、語り手は性的暴行を通報するが、たちまち担当の刑事から性的な興味を示される。じつにむかつく瞬間だが、これは作者の実体験に基づいている。

「心のなかでこういう瞬間を収集してきたような気がするんです。『こんなこと言われたのは忘れないからね。いつかこれを作品のなかで使ってやる。そうしたらあんたは世間に顔向けできなくなるんだからね』みたいな感じで」とファハルド＝アンスタインは語る。「人間がこんなに醜くなれるってことが、みんなにわかるでしょ」

人間の醜さがもっともはっきり表れているのが「姉妹」で、あまりに暴力的なので、さいしょに読んでもらった人たちからは本書から外す

photograph ©Tom Hines

Ocean Vuong
On Earth We're Briefly Gorgeous [2019]

詩人が母に向けた鮮烈なデビュー作

オーシャン・ヴオン『地上で僕たちはつかの間輝く』

木原善彦訳　2021年夏刊行予定

「海」と名付けられたベトナム系作家が紡ぐ血と涙と救いにあふれた赤裸々な手紙。

木原善彦·文
text by Kihara Yoshihiko

オーシャン。印象的な名前だ。1988年10月にベトナムのホーチミンに生まれ、幼い頃に家族とともに米国に移住。母は読み書きができず、いまだに英語が得意ではない。ある夏の日、彼女が勤め先のネールサロンで「砂浜（ビーチ）に行きたい」と客に話すと、「あなたの発音だと〝売女（ビッチ）〟に聞こえるから、代わりに〝海（オーシャン）〟を使った方がいい」と勧められた。彼女は祖国と米国をつなぐ大洋を意味するこの語が気に入って、息子の名前をオーシャンに変えたのだという。

オーシャン・ヴオンはすごい人だ。詩人として2017年にT・S・エリオット賞（近年の受賞者にはデレク・ウォルコット、シェイマス・ヒーニーらが並ぶ）を受賞、2019年には俗に天才賞とも呼ばれるマッカーサー奨学金（古くはギャディス、ピンチョン、リチャード・パワーズ、新しいところではジュノ・ディアス、ベン・ラーナーらが受給）を与えられ、既に押しも押されもしない高い評価を得ている。

そんな詩人が、母に宛てた手紙という形式の自伝的な小説を発表したのは昨年のことだった。そこに綴られているのは、英語が話せず学校でいじめられ、家では母から暴力を振るわれた子供時代、たばこ農場で知り合った青年に恋をしたハイスクール時代、そして詩人となった現在までのさまざまな出来事。時に赤裸々で、時にごく日常的な場面の一つ一つが魔法のようなヴオンの筆で恐ろしいほどの輝きを放つ。このデビュー小説はあっという間に大評判を呼び、PEN／フォークナー賞の最終候補にもなった。

私は初読で一息に、まさに舐めるように読んだ。とてももったいなくて読み急ぐなどということはできない、しかし途中では息を継ぐことができない、そんな言葉の集まりだった。文字の読めない母親に宛てた手紙には血と涙と救いがあふれていた。

photograph by Nobuni Aoki

よう勧められたとファハルド＝アンスタインは言う。作者の一族に連なる人物の実話に基づいているこの短篇は、表題になっている姉妹の片方が白人の求婚者から口説かれて拒絶したあとで、酷い暴力に見舞われて終わる。

姉妹の物語の背景にあるのが、彼女たちの暮らすコミュニティで若いフィリピン系の女性が行方不明になったというニュースだ。ファハルド＝アンスタインは、この女性の話をどういう結末にしようか悩んだ。生きて見つかるのだろうか？　家に帰ってくる？　忘れられる？　コロラド州における行方不明者の事件を調査すると、憂慮すべき傾向に気がついた。

「スペイン系の苗字を持つ女性たちについてわたしが見つけた未解決事件の数ときたら、嫌になるぐらいです」と彼女は言う。「ただ遺体が見つかるだけで、事件が解決されることはありません。捜査されないんです」

Kali Fajardo-Anstine

1986年、コロラド州デンバー生まれ。デンバー・メトロポリタン州立大学卒業後、ワイオミング大学で芸術学修士号を取得。各地で創作を教えながら「The American Scholar」「Boston Review」などの雑誌に短篇小説を寄稿。2019年に刊行されたデビュー短篇集である本書はたちまち注目を集め、リーディング・ザ・ウエスト・ブックアワード、デンバー市長芸術文化賞を受賞。ストーリー賞、PEN／ピンガム賞、全米図書賞の最終候補作にもなった。

日本の読者に向けてのメッセージ画像
https://www.shinchosha.co.jp/book/590167/

「見えない存在」という苦しみ

ファハルド＝アンスタインは、実生活でもこの傾向に気づいていた。自分のコミュニティの女性が行方不明になっても、ほとんどニュースにもならない。白人女性が行方不明になると、あちこちで報道される。全米公共放送網のニュースキャスターだった故グウェン・アイフィルの造語「白人女性が行方不明シンドローム」というフレーズはこの現象を端的に表している。

「自分は見えない存在なんじゃないか、わたしの知っている女性たちは見えない存在なんじゃないか、という苛立ちがありました」とファハルド＝アンスタインは語る。

この激しく大胆な短篇集のなかで、女たちは――そして作者自身も――姿が見え、声が聞こえ、認知される存在だ。この短篇集は苦しみの産物であり、またサバイバルを称えるものでもある。「口にするのさえつらいことです。自分の体が反応してしまうのがわかるんです」と作者は言う。「だからわたしは作家になったのだと思います。自分で経験したさまざまな苦しみを抱え、とても多くの苦しみを見てきました。誰も声をあげることはしませんでした。わたしの人生には沈黙と恥がどっさりあったんです。このままでは自分が溢れてしまうと思いました。なんとかして出さなければ、ほかの形で出てきてしまう。わたしはそれをフィクションでやったんです」

登場人物たちには暗い影があるものの、この短篇集には回復する力が流れている。「姉妹」のなかにさえ、ファハルド＝アンスタインは強さを見る。「彼女は自分が結婚したくない男とは結婚しません。そういうことから抜け出すんです。彼女は生き延びました。死にはしませんでした。そしてそれはわたしにとって、素晴らしいサバイバルの物語なんです」

『サブリナとコリーナ』の表紙カバー（英語版）の女性のように、この登場人物たちの心臓はむきだしになってはいるが無傷だ。ファハルド＝アンスタインの心臓もまたページの上で、祖先の血とともに鼓動している。

"This Chicana Author Is Writing Love Letters To The Women Of Her Homeland"
First published on Bustle.com, May 18, 2019
https://www.bustle.com/

ただいま翻訳中！

今秋以降に刊行を予定している注目の作品を、
それぞれの翻訳者の方々にご紹介いただきました。
新鋭の話題作のほか、イアン・マキューアンなど
クレスト常連の作品も刊行されます。

photograph by Tsutsuguchi Naohiro

※タイトルはすべて仮題です。

『赤い手帳の女』

アントワーヌ・ローラン

La femme au carnet rouge by Antoine Laurain

吉田洋之

text by Yoshida Hiroyuki

〈ベルフェゴールが男になった夢を見た。わりといい男だった。私たちは高級ホテルのバーで一杯飲んだ後、バルコニーで愛を営み、目を覚ますと、ベルフェゴールは鼻先を私の鼻に当てていた。夢ではなく、現実の世界で……〉

ベルフェゴールとはロールが飼う猫の名前。彼女は見た夢や自分だけの思いを赤い手帳に綴っていた。ある日の朝、書店主のローランは道端のゴミ箱の上に置かれたハンドバッグを拾う。赤い手帳、香水瓶、モディアノ直筆サイン入り本、クリーニング屋の伝票、彼はわずかな手がかりを頼りに持ち主の女性を探し始める。ロマンス・コメディ・サスペンスのアッサンブラージュ、世界中を魅了した未だ見ぬ大人の恋の物語。英王室カミラ夫人はコロナ禍ロックダウン最中の推薦図書に挙げ、「完璧なパリの傑作」と絶賛。二〇一七年ジュゼッペ・アチェルビ賞（伊）受賞作。

（二〇二〇年十二月刊行予定）

『婚礼の宴と思い出の味覚』

カルミネ・アバーテ

Il banchetto di nozze e altri sapori by Carmine Abate

関口英子

text by Sekiguchi Eiko

『風の丘』や『ふたつの海のあいだで』で、風味豊かな食卓の光景を随所に織り込んできたイタリアの小説家カルミネ・アバーテが、食をキーワードに自らの半生を振り返った連作短篇小説集。

故郷カラブリアの海辺で食べた祖母のオムレツに始まり、アルバレシュの村、父の出稼ぎ先のドイツ、愛する妻と定住を決めた北イタリアなど各地を巡り、最後にはふたたび故郷に戻り、息子を温かく見守る父親の眼差しとともに環が閉じられる。

時間と土地が凝縮された料理を大切な人といただく。それは移住によって離れて暮らさざるを得なかった家族との絆を再確認し、決して肥沃とはいえない大地から得る恵みに感謝し、先祖から受け継いだ伝統を次世代に伝える営みなのだ。

そんなごく人間的な日常のありがたみを強く噛みしめている今だからこそ、アバーテの複層的な語りで描き出される祈りにも似た光景が、なおさら私たちの心に染みる。

（二〇二〇年十月刊行予定）

『恋するアダム』

イアン・マキューアン

Machines Like Me by Ian McEwan

村松潔

text by Muramatsu Kiyoshi

南ロンドンの安アパートに住むだつの上からぬ独身男、チャーリーは、たまたま転がりこんだ母親の全遺産をつぎこんで、最新鋭のアンドロイドを手に入れる。おなじころ、階上の女学生にひそかな恋心を抱いていた彼は、ついに一夜をともにすることに成功するのだが、そこに外見上は人間にしか見えないこのアダムが割りこんでくる。自意識を持ったこの機械は、やがて女学生を愛していると告白し、チャーリーは奇妙な三角関係に巻きこまれていくのだが……。

というと、未来の物語に思えるかもしれないが、マキューアンの世界はいつも単純ではない。物語は過去に、しかも実際にはなかった過去に設定されている。時代は一九八二年。フォークランド紛争の真っ直中だが、戦争の結果が実際とは正反対だったり、人工知能の父、アラン・チューリングがまだ生きていて登場したり、存在したかもしれない過去に存在するかもしれない未来を埋めこんだような、不思議な味わいの物語になっている。

（二〇二一年春刊行予定）

『ヒューマン・コード』

マーカス・デュ・ソートイ

The Creativity Code by Marcus du Sautoy

冨永星

text by Tominaga Hoshi

『素数の音楽』の著者による「AIと創造性」の物語。究極の創造性が鍵となるゲーム、囲碁の世界チャンピオンにAIが勝ち、伝統あるオークションでAIが描いた絵が売られ、ジャズの世界にAIが入ってきた今、「人間の営みはすべてAIに取って代わられるのか」『2001年宇宙の旅』のHALのようにAIが意志を持つことになるのか」という問いも荒唐無稽でなくなったように思われます。

コンピュータ・プログラムを作成するうえで人間の営みの徹底分析が不可欠だったように、AIを考えるには、人間の何たるかを考えることが欠かせません。演劇文学音楽大好き人間の数学者が、外界を分析する強力な武器としての数学的思考を用いて「AIは創造性を持ちうるか」という問いに挑みました。その正直な冒険譚がここにあります。目下、鋭意翻訳中。

（二〇二〇年十一月刊行予定）

『ウォーター・ダンサー』

タナハシ・コーツ

The Water Dancer by Ta-Nehisi Coates

上岡伸雄

text by Kamioka Nobuo

最近の事件からも、黒人差別の問題の根深さがわかる。差別がまかり通る社会で生きるとはどういうことか？そういう社会を成り立たせているものは？

『世界と僕のあいだに』でこういう問題に鋭く切り込んだアフリカ系アメリカ人の文筆家、タナハシ・コーツが、奴隷制を題材にして書いた初の小説が本書。19世紀中盤、ヴァージニア州の奴隷ハイラムは、幼少期に母を売られてしまうという試練を経て、類い稀な能力を生かし、奴隷を逃亡させるネットワークで活動し始める。ハリエット・タブマンのような実在の人物も登場し、展開される物語は壮大かつエキサイティング。奴隷制という非人道的な制度下に生きた人々の感情や、その制度を維持する白人たちの腐敗が生々しく描き出される。そんな過酷な状況下、家族から引き離されて売られていく人々、命がけで奴隷を逃がそうとする人々の姿が心に深く刻まれるはず！

（二〇二一年春刊行予定）

新潮クレスト・ブックスがお届けする102タイトルをご紹介します。
（価格は税別です）

Shincho Crest Books Catalog 1998–2020

イラクサ
アリス・マンロー
小竹由美子訳

一瞬が永遠に変わるさま。長い年月を見通すまなざし。長篇小説を凝縮したかのような味わいの、「短篇の女王」による九つの物語。

2400円
590053-3

世界の果ての ビートルズ
ミカエル・ニエミ
岩本正恵訳

笑えるほど最果ての村で、僕は育った。凍てつく川。薄明かりの森。そして手づくりの僕のギター！　スウェーデンの傑作長篇小説。

1900円
590052-6

素数の音楽
マーカス・デュ・ソートイ
冨永星訳

神秘的な謎に満ちた数、素数。その不思議な美と今も続く天才たちの挑戦とは。小川洋子さん絶賛のスリリングなノンフィクション！

2400円
590049-6

停電の夜に
ジュンパ・ラヒリ
小川高義訳

ろうそくの灯りの下、秘密の話を――。ピュリツァー賞ほか独占！インド系女性作家による驚異のデビュー短篇集。もはや古典的名作。

1900円
590019-9

朗読者
ベルンハルト・シュリンク
松永美穂訳

十五歳の少年ミヒャエルが経験した切ない初恋。母親のような年の女性ハンナを失踪させた秘密とは――。衝撃の世界的ベストセラー。

1800円
590018-2

ハイウェイとゴミ溜め
ジュノ・ディアス
江口研一訳

『オスカー・ワオの短く凄まじい人生』の著者による伝説的デビュー作。全米最優秀短篇に選出された「イスラエル」ほか全10篇。

1900円
590004-5

海に帰る日
ジョン・バンヴィル
村松潔訳

海に消えた少女の記憶が、今もわたしを翻弄する。荒々しく美しい、あの海のように。アイルランド随一の文章家のブッカー賞受賞作。

1900円
590061-8

千年の祈り
イーユン・リー
篠森ゆりこ訳

長い祈りに支えられた父娘の縁。人生の黄昏にある男女の情愛……。オコナー賞、ヘミングウェイ賞ほか総なめの驚異のデビュー短篇集。

2000円
590060-1

林檎の木の下で
アリス・マンロー
小竹由美子訳

スコットランドの寒村から新大陸カナダへ――。三世紀の時を貫く作家自身の一族の物語。落ちついた声、天才的な筆捌き。12の自伝的短篇。

2400円
590058-8

密会
ウィリアム・トレヴァー
中野恵津子訳

早朝のオフィス、カフェの片隅の定席、離婚した彼女の部屋。秘めた二人の愛の決断とは。「英語圏最高の短篇作家」による十二篇。

1900円
590065-6

ペット・サウンズ
ジム・フジーリ
村上春樹訳

恋愛への憧れ、父との確執、麻薬、肥満……。ビーチ・ボーイズの最高傑作『ペット・サウンズ』は、壮絶な戦いの記録でもあった。

1600円
590064-9

土曜日
イアン・マキューアン
小山太一訳

ロンドン、午前四時。未明の空に火を噴く飛行機。テロか？　それとも？　名匠の優美極まる筆致で描かれる、脳外科医の不穏な一日。

2200円
590063-2

灰色の輝ける贈り物
アリステア・マクラウド
中野恵津子訳

カナダ、ケープ・ブレトン島の苛酷な自然の中で、漁師、坑夫を生業とし、一族としての思いを胸に生きる人々。奇跡のような名短篇集。

1900円
590032-8

ウォーターランド
グレアム・スウィフト
真野泰訳

土を踏みしめていたはずの足元に、ひたひたと寄せる水の記憶――。ブッカー賞作家によるもっとも危険なもっとも愛すべき最高傑作。

2900円
590029-8

パリ左岸のピアノ工房
T・E・カーハート
村松潔訳

パリの小さな工房で、若き職人が魔法のように再生する名器の数々……。眠っていた音楽とピアノへの愛が甦る傑作ノンフィクション。

2000円
590027-4

最終目的地
ピーター・キャメロン
岩本正恵訳

ウルグアイの邸宅で繰り広げられる愛の物語。英国古典小説の味わいをもつ滑稽でエレガントな傑作長篇。アイヴォリー監督により映画化。

2400円
590075-5

記憶に残っていること
アリス・マンロー他
堀江敏幸編

世界最高の短篇小説をこの一冊に。マンロー、トレヴァー、ラヒリ、マクラウド、イーユン・リー……創刊から10年間の全短篇集から厳選。

1900円
590070-0

見知らぬ場所
ジュンパ・ラヒリ
小川高義訳

父と母の、子供たちの、恋人たちの歳月。『停電の夜に』以来九年ぶり、世界待望の最新短篇集。フランク・オコナー国際短篇賞受賞！

2300円
590068-7

冬の犬
アリステア・マクラウド
中野恵津子訳

カナダ東端の島で、犬、馬、鷲ら動物とともに、祖先の声に耳を澄ませながら人生の時を刻む人々。生の厳しさと美しさを湛えた8篇。

1900円
590037-3

シェル・コレクター
アンソニー・ドーア
岩本正恵訳

孤島で貝を拾い、静かに暮らす盲目の老貝類学者を襲った奇妙な騒動を描く表題作ほか、O・ヘンリー賞受賞作を含む鮮やかな全8篇。

1800円
590035-9

ソーネチカ
リュドミラ・ウリツカヤ
沼野恭子訳

本の虫で、容貌のぱっとしないソーネチカ。最愛の夫の秘密を知ったとき彼女は……。神の恩寵に包まれた女性の静謐な一生の物語。

1600円
590033-5

いちばんここに似合う人
ミランダ・ジュライ
岸本佐知子訳

孤独な魂たちが束の間放つ生の火花を、切なく鮮やかに写し取った十六の物語。映画監督としても活躍する著者のオコナー賞受賞作。

1900円
590085-4

サラの鍵
タチアナ・ド・ロネ
高見浩訳

パリの女性記者と、ナチに連行された少女。六十年の時を越え、二つの人生が交錯する――累計三百万部のベストセラー。映画化原作。

2300円
590083-0

初夜
イアン・マキューアン
村松潔訳

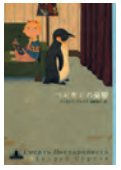
ずっと二人で歩いていけたかもしれない。あの夜の出来事さえなければ。遠い日の愛の記憶を克明かつ繊細に描く、異色の恋愛小説。

1700円
590079-3

彼方なる歌に耳を澄ませよ
アリステア・マクラウド
中野恵津子訳

18世紀末、スコットランドからカナダ東端の島に渡った赤毛の男がいた――。カナダの「静かな巨人」が描く、愛すべき一族の物語。

2200円
590045-8



ペンギンの憂鬱
アンドレイ・クルコフ
沼野恭子訳

憂鬱症のペンギンと暮らす小説家ヴィクトル。新聞の死亡記事を書く仕事をきっかけに、身辺に不可解な出来事が次々に起こって……。

2000円
590041-0

その名にちなんで
ジュンパ・ラヒリ
小川高義訳

長く口にせずにきた思い。愛しい人を遠く焦がれる切なさ。名手ラヒリが精緻に描く人生の機微。ふかぶかと胸にしみる待望の初長篇。

2200円
590040-3

低地
ジュンパ・ラヒリ
小川高義訳

インド民主化運動のなか殺された弟。その身重の妻をアメリカに連れ帰った兄。愛と失意が織り成す波乱の家族史。待望の長篇小説。

2500円
590110-3

大いなる不満
セス・フリード
藤井光訳

なぜか毎年繰り返される、死者続出のピクニック。平均寿命一億分の四秒の微小生物。不条理と笑いに満ちた圧倒的デビュー短篇集。

1800円
590109-7

遁走状態
ブライアン・エヴンソン
柴田元幸訳

前妻と前々妻に追われる元夫。勝手に喋る舌を止められない男。明晰に語られる十九の悪夢。ホラーも純文学も超える驚異の短篇集。

2100円
590108-0

マリアが語り遺したこと
コルム・トビーン
栩木伸明訳

母マリアによるもう一つのイエス伝。「聖母」ではなく人の子の母としてのマリアが語る、美しく果敢な独自小説。ブッカー賞候補作。

1600円
590113-4

光の子供
エリック・フォトリノ
吉田洋之訳

私の母は誰なのか――。パリを舞台に、映画と現実を往来するある男の愛の彷徨。ル・モンド紙元編集長による《フェミナ賞受賞作》。

1800円
590112-7

甘美なる作戦
イアン・マキューアン
村松潔訳

MI5の美人スパイと若き小説家。二人の愛は幻だったのか？　自伝的で小説論的。ブッカー賞作家による野心あふれる恋愛小説。

2300円
590111-0

突然ノックの音が
エトガル・ケレット
母袋夏生訳

しゃべる金魚。神様の本音。ままならぬセックス。そして突然のテロ――。イスラエルの人気作家の掌篇集。オコナー賞最終候補作。

1900円
590116-5

風の丘
カルミネ・アバーテ
関口英子訳

古代遺跡の夢。ファシズムとの戦い。一族の秘密。イタリア最南端、風の強い丘に暮らす家族四代の物語。カンピエッロ賞受賞。

2100円
590115-8

善き女の愛
アリス・マンロー
小竹由美子訳

誰にも覚えのある家族間の出来事を見事なドラマとして描きだす、マンローの金字塔的短篇集。1998年度全米批評家協会賞受賞作。

2400円
590114-1

あなたを選んでくれるもの
ミランダ・ジュライ
岸本佐知子訳

映画の脚本執筆に行き詰まった著者は、フリーペーパーに売買広告を出す人々を訪ねる。カラー写真満載、心を打つインタビュー集。

2300円
590119-6

子供時代
リュドミラ・ウリツカヤ
絵 ウラジーミル・リュバロフ
沼野恭子訳

中庭のあるアパートに住む子供たちが出会った奇跡。「キャベツの奇跡」「折り紙の勝利」等、祝福されたかけがえのない瞬間に心打たれる6篇。

1800円
590118-9

ヴォルテール、ただいま参上!
ハンス＝ヨアヒム・シェートリヒ
松永美穂訳

尊敬と反発、女性関係に金銭トラブル。ヴォルテールとフリードリヒ大王の知られざる素顔を描く、笑いと驚きの新しい歴史小説。

1600円
590117-2

未成年
イアン・マキューアン
村松潔訳

輸血を拒む少年と彼を救おうとする女性裁判官。運命と信仰をめぐる激しい葛藤、恋にも似た思い。ブッカー賞作家による傑作長篇。

1900円
590122-6

文学会議
セサル・アイラ
柳原孝敦訳

小説家でマッド・サイエンティストの〈私〉は文学会議に出席する文豪のクローン作製を企むが。アルゼンチンの奇才が放つ衝撃作!

1700円
590121-9

べつの言葉で
ジュンパ・ラヒリ
中嶋浩郎訳

「私にとってイタリア語は救いだった」――夫と息子たちとともにローマに移住した作家が綴ったイタリア語による初エッセイ。

1600円
590120-2

オスカー・ワオの短く凄まじい人生
ジュノ・ディアス
都甲幸治・久保尚美訳

オタク青年オスカーの悲恋の陰には、一族が背負った呪いがあった。全米批評家協会賞・ピュリツァー賞をダブル受賞した傑作長篇。

2400円
590089-2

小説のように
アリス・マンロー
小竹由美子訳

夫を子連れの女に奪われた音楽教師。今は幸福に暮らす彼女の前に過去を思わせる小説が現れて――。「短篇の女王」による十の物語。

2400円
590088-5

黙禱の時間
ジークフリート・レンツ
松永美穂訳

ギムナジウムで開かれた追悼式。遺影を見つめる少年に甦る、美しい教師とのひと夏の想い出。巨匠による、海に彩られた純愛小説。

1600円
590086-1

タイガーズ・ワイフ
テア・オブレヒト
藤井光訳

「不死身の男」と「トラの嫁」。二つの物語が、祖父の人生の謎を浮き彫りにする――。本屋大賞翻訳小説部門第一位。驚異のデビュー作。

2200円
590096-0

女が嘘をつくとき
リュドミラ・ウリツカヤ
沼野恭子訳

夏の別荘で、波瀾万丈の生い立ちを語るアイリーン。ところがその話はほとんど嘘で……。嘘をつく女たちの哀しくも微笑ましい人生。

1800円
590095-3

残念な日々
ディミトリ・フェルフルスト
長山さき訳

貧しく、下品で、誇り高い。のんだくれの父一族との少年時代。心をつかんで離さない、ベルギーの俊英による自伝的連作短篇集!

1900円
590094-6

終わりの感覚
ジュリアン・バーンズ
土屋政雄訳

精緻、深遠、洗練。四度目の候補にしてブッカー賞受賞。英国を代表する作家の、時間と記憶をめぐる優美でサスペンスフルな中篇。

1700円
590099-1

祖母の手帖
ミレーナ・アグス
中嶋浩郎訳

サルデーニャの祖母が愛した「帰還兵」。イタリアの新鋭による、ひたむきで官能的な愛の物語。美しい器楽曲を思わせる小さな本。

1600円
590098-4

手紙
ミハイル・シーシキン
奈倉有里訳

戦争に行った若者と残された少女。ふたりは百年の時を隔ててめぐり会う。死を超えて、時空を超えて綴られた、瑞々しい愛の手紙。

2400円
590097-7

こうしてお前は彼女にフラれる
ジュノ・ディアス
都甲幸治・久保尚美訳

どうしていつも、うまくいかないのか？　浮気男ユニオールとたくさんの女たちが繰り広げる、おかしくも切ない九つの愛の物語。

1900円
590103-5

アンネ・フランクについて語るときに僕たちの語ること
ネイサン・イングランダー
小竹由美子訳

コミカルな語りに深い倫理性。人間の普遍を描きだす啓示のような物語。フランク・オコナー国際短篇賞受賞作。

1900円
590101-1

夏の嘘
ペルンハルト・シュリンク
松永美穂訳

避暑地で出会った男女。癌を患う大学教授。作家とその夫。小さな嘘をきっかけに秘められた思いが溢れ出す。著者十年ぶりの短篇集。

2000円
590100-4

ディア・ライフ
アリス・マンロー
小竹由美子訳

2013年ノーベル文学賞を受賞した短篇小説家が、透徹した眼差しと眩いほどの名人技で描きだす平凡な人々の途方もない人生の深淵。

2300円
590106-6

いにしえの光
ジョン・バンヴィル
村松潔訳

姿を消した人気女優と後を追う老俳優の、奇妙な逃避行。いくつかの曖昧な記憶が不意に新しい像を結ぶ。ブッカー賞作家の新境地。

2100円
590105-9

美しい子ども
ジュンパ・ラヒリ他
松家仁之編

シリーズ創刊15周年を記念して、全101篇から選んだ傑作短篇アンソロジー。ラヒリ、ミランダ・ジュライ、マンロー、シュリンクほか。

1900円
590104-2

おじいさんに聞いた話
トーン・テレヘン
長山さき訳

ハッピーエンドのお話はないの？ ロシア生れの祖父が語る悲哀に満ちた人生の物語。『ハリネズミの願い』の作家による愛すべき掌篇集。

1800 円
590140-0

オープン・シティ
テジュ・コール
小磯洋光訳

マンハッタンを日ごと彷徨する若き精神科医。時折よみがえる遠い国の記憶。数々の賞に輝いたナイジェリア系作家によるデビュー長篇。

1900 円
590138-7

階段を下りる女
ベルンハルト・シュリンク
松永美穂訳

名画とともに異国に消えた謎の女。消そうとして消せなかった彼女の過去とは？ 一枚の絵をめぐるドイツのベストセラー作家の新境地。

1900 円
590139-4

ファミリー・ライフ
アキール・シャルマ
小野正嗣訳

家族の暮らしを一変させた、あの夏の事故。意識が戻らぬ兄、疲弊する両親、悲しみの中で成長する弟。愛情と祈りに満ちた家族小説。

1800 円
590143-1

ノーラ・ウェブスター
コルム・トビーン
栩木伸明訳

夫を亡くし、21 年ぶりに勤めに出たノーラ。慎ましく不器用な主婦が、生きる歓びを見出してゆく姿を母に重ねて描く自伝的長篇。

2400 円
590142-4

運命と復讐
ローレン・グロフ
光野多恵子訳

それは結婚という名の壮大な悲喜劇。巧みなプロットと古典劇の文学性を併せ持ち、オバマ前大統領も愛読した圧巻の大河恋愛小説！

2700 円
590141-7

知の果てへの旅
マーカス・デュ・ソートイ
冨永星訳

宇宙に果てはあるのか。時間とは意識とは？ はたして科学は全てを知りえるのか。『素数の音楽』の著者による知の限界への挑戦。

2700 円
590146-2

マザリング・サンデー
グレアム・スウィフト
真野泰訳

メイドに許された年に一度の里帰りの日曜日、ジェーンの人生は自由の色に輝き始める。ブッカー賞作家が熟達の筆で描く珠玉の物語。

1700 円
590145-5

昏い水
マーガレット・ドラブル
武藤浩史訳

70 代後半を迎えたドラブルが、同世代の枯れない女たち男たちの老いの姿をいきいきと描く、まさに英国的苦みの効いた長篇小説。

2300 円
590144-8

ガルヴェイアスの犬
ジョゼ・ルイス・ペイショット
木下眞穂訳

空から巨大な物体が落ちてきて、村はすっかり変わってしまった。権威あるオセアノス賞を受賞。奇想天外なポルトガルの傑作長篇。

1900 円
590149-3

戦時の音楽
レベッカ・マカーイ
藤井光訳

ベスト・アメリカン・ショート・ストーリーズに 4 年連続選出。戦争と音楽、幻想と歴史の間をたゆたう、短篇の名手による 17 篇。

2000 円
590148-6

憂鬱な10か月
イアン・マキューアン
村松潔訳

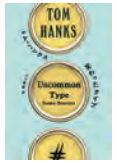
胎内から窺い知る、まだ見ぬ人間達の世界。愛と裏切り、そして犯罪の気配。英国の名匠による、苦い笑いに満ちた極上の名篇。

1800 円
590147-9

両方になる
アリ・スミス
木原善彦訳

時空を超えて響きあう二つの物語は、虚構と事実の境界を塗り替え、再読時に全く違う姿を見せる。楽しさと驚きに満ちた長篇小説。

2400 円
590152-3



変わったタイプ
トム・ハンクス
小川高義訳

世界的名優は、短篇小説のおそるべき名手でもあった！ 人生のひとコマを鮮やかに切り取る、優しさとユーモアにあふれた 17 の物語。

2400 円
590151-6

最初の悪い男
ミランダ・ジュライ
岸本佐知子訳

愛するベイビー、いつになったらまたあなたをこの腕に抱けるの？ どこまでも奇妙でなにより切実な愛に導かれた、感動の初長篇。

屋根裏の仏さま
ジュリー・オオツカ
岩本正恵・小竹由美子訳

20 世紀初頭、「写真花嫁」としてアメリカに渡った少女たち。そのささやきが圧倒的な声になって立ち上がる全米図書賞候補作。

1700 円
590125-7

陽気なお葬式
リュドミラ・ウリツカヤ
奈倉有里訳

自分のお葬式が愛で満たされるように願う亡命ロシア人画家アーリクの最期の贈り物とは――不思議な祝祭感と幸福感が溢れる物語。

1800 円
590124-0

夜、僕らは輪になって歩く
ダニエル・アラルコン
藤井光訳

内戦終結後に再結成された伝説の小劇団。十数年ぶりの公演旅行は、ある嘘をきっかけに思わぬ方向へ。ペルー系作家による話題作。

2200 円
590123-3

誰もいないホテルで
ペーター・シュタム
松永美穂訳

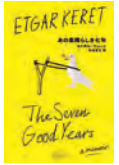
森の中の宿で。リノベーションされた工場跡地で。音楽フェスの夜に。心をとらえ、運命を動かす瞬間。スイス人作家による短篇集。

1700 円
590128-8

煉瓦を運ぶ
アレクサンダー・マクラウド
小竹由美子訳

その後の人生を一変させる決定的瞬間を、瑞々しい筆致で描き出す。故アリステア・マクラウドの息子による鮮烈なデビュー短篇集。

1900 円
590127-1



あの素晴らしき七年
エトガル・ケレット
秋元孝文訳

愛しい息子の誕生からホロコーストを生き延びた父の死までの、悲嘆と映笑と祈りに満ちた七年。イスラエル作家の自伝的エッセイ集。

1700 円
590126-4

ジュリエット
アリス・マンロー
小竹由美子訳

母と娘、そのまた娘。届かない互いの思いを諦観とともに描くアルモドバル監督映画化の連作など、ビターなマンロー全開の傑作短篇集。

2400 円
590131-8

四人の交差点
トンミ・キンヌネン
古市真由美訳

異なる時代を生きた四人の喜びと痛みの記憶が、やがて一つの像を結ぶ。フィンランドで記録的ベストセラーとなった、ある家族の物語。

2200 円
590130-1

すべての見えない光
アンソニー・ドーア
藤井光訳

ドイツの若い技術兵と、フランスの盲目の少女の心を繋いだのは、ラジオから流れる懐かしい声だった――。ピュリツァー賞受賞作。

2700 円
590129-5

ビリー・リンの永遠の一日
ベン・ファウンテン
上岡伸雄訳

イラクから帰還し、戦意高揚のショーに駆り出された兵士。過酷な戦場と愚かな狂騒の、その途方もない隔絶。全米批評家協会賞受賞作。

2300 円
590134-9

本を読むひと
アリス・フェルネ
デュランテクスト冽子訳

パリ郊外の荒れ地に暮らす文字を知らないジプシーの大家族と、彼らに本を読む歓びをもたらした図書館員。フランスのロングセラー！

1900 円
590133-2

ウインドアイ
ブライアン・エヴンソン
柴田元幸訳

妹はどこへ消えたのか。それとも、妹などいなかったのか？ 滑稽でいてひどく切実な、不安と恐怖。『遁走状態』に続く待望の短篇集。

2000 円
590132-5

五月の雪
クセニヤ・メルニク
小川高義訳

仄暗い歴史を背負う極寒の町マガダン。この土地で暮らす人々の哀しみと喜び。米国注目のロシア系移民作家による、鮮烈な連作短篇集。

2000 円
590137-0

人生の段階
ジュリアン・バーンズ
土屋政雄訳

悲しみの回帰線を超えて――誰かの死は、その存在が消えることまでは意味しない。公私ともに最高の伴侶を亡くした作家の思索と回想。

1600 円
590136-3

ふたつの海のあいだで
カルミネ・アバーテ
関口英子訳

ある日、姿を消した祖父。《いちじくの館》再建の夢はいかに――。イタリアの人気作家が描く、土地に深く根ざした強靱な物語。

1900 円
590135-6

ミッテランの帽子
アントワーヌ・ローラン
吉田洋之訳

その帽子を手にした日から、冴えない人生は美しく輝きはじめる。1980年代のパリを舞台にした、大人のための幸福なおとぎ話。

1900円
590155-4

ピアノ・レッスン
アリス・マンロー
小竹由美子訳

後のノーベル賞作家は、デビュー時にすでに「短篇の女王」だった。人生の陰翳を描き読者を魅了する名匠の原風景が詰まった作品集。

2200円
590154-7

帰れない山
パオロ・コニェッティ
関口英子訳

山がすべてを教えてくれた。アルプス山麓を舞台に、本当の居場所を求めて彷徨う二人の葛藤と友情を描く、国際的ベストセラー。

2050円
590153-0

ある一生
ローベルト・ゼーターラー
浅井晶子訳

アルプスの山とともに、20世紀を生きた名もなき男の生涯がなぜこんなにも胸に迫るのか。現代オーストリア文学の恩寵に満ちた物語。

1700円
590158-5

トリック
エマヌエル・ベルクマン
浅井晶子訳

プラハに生まれナチス政権下を生き抜いた老マジシャンと、魔法を信じるLAの少年。それぞれの艱難を抱えた出会いが奇跡を起こす。

2500円
590157-8

波
ソナーリ・デラニヤガラ
佐藤澄子訳

わたしの人生にはすべてがあった。あの波が来るまでは――2004年、突然の津波で家族を失った経済学者が綴る、絶望と再生の手記。

2000円
590156-1

靴ひも
ドメニコ・スタルノーネ
関口英子訳

40年前の別居騒動を乗り越えたはずの老夫婦の留守宅が襲われ、猫が消えた。普通の家庭に潜む怖しさを見事に描いた衝撃の家族小説。

1900円
590161-5

ケミストリー
ウェイク・ワン
小竹由美子訳

どうしてうまくいかないの？ リケジョのこじれた思いが行きつく先は。ユニークな語りが胸を打つ、愛と家族と人生のものがたり。

2000円
590160-8

わたしのいるところ
ジュンパ・ラヒリ
中嶋浩郎訳

ローマと思しき町に暮らす「わたし」の、なじみの場所にちりばめられた孤独と彼女の旅立ちの物語。イタリア語による初めての長篇。

1700円
590159-2

秋
アリ・スミス
木原善彦訳

およそ百歳の眠り続ける老人。その人生はEU離脱に揺れるイギリスの戦後史に重なり――奇想に満ちたポスト・ブレグジット小説。

2000円
590164-6

友だち
シーグリッド・ヌーネス
村松潔訳

男友だちを喪った女性作家と主を亡くした老犬。残された時間の中で、狭いアパートにふたつの孤独が寄り添う。全米図書賞受賞作。

2000円
590163-9

西への出口
モーシン・ハミッド
藤井光訳

故郷の戦火を逃れるため、国境を越える「扉」を抜けた若い男女。世界中の移民達の風景も交え、新天地を目指す人生を鮮烈に描く。

1800円
590162-2

サブリナとコリーナ
カリ・ファハルド＝アンスタイン
小竹由美子訳

コロラド州デンバー、ヒスパニック系住区のやるせない日常の中で逞しく生きる女たちを描き、全米図書賞最終候補となった話題作。

2100円
590167-7
【最新刊】

アコーディオン弾きの息子
ベルナルド・アチャガ
金子奈美訳

幼なじみはなぜ故郷を捨て、アメリカで没したのか。遺された回想録から浮かび上がる波乱の人生を描く、バスク語現代文学の傑作。

3000円
590166-0

オルガ
ベルンハルト・シュリンク
松永美穂訳

北の果てに消えた恋人、言えなかった秘密。激動の二十世紀ドイツを生きた女性オルガのひたむきな人生に心揺さぶられる最新長篇。

2000円
590165-3